

石川県羽咋郡志賀町で開かれた「原発講演会」(地元の広域商工会主催)での高木孝一敦賀市長の講演内容 (1983年1月26日)

只今ご紹介頂きました敦賀市長、高木でございます。えー、今日は皆さん方、広域商工会主催によります、原子力といわゆる関係地域の問題等についての勉強会をおやりになろうということで、非常に意義あることではなかろうか、というふうに存じております。...ご連絡を頂きまして、正しく原子力発電所というものを理解していただくということについては、とにもかくにも私は快くひとつ、馳せ参じさせて頂くことにいたしましょう、ということで、引き受けた訳でございます。

一昨年もちょうど4月でございましたが敦賀1号炉からコバルト60がその前の排出口のところのホンダワラに付着したというふうなことで、世界中が大騒ぎをいたした訳でございます。私は、その4月18日にそうしたことが報道されてから、20日の日にフランスへ行った。いかにも、そんなことは新聞報道、マスコミは騒ぐけれど、コバルト60がホンダワラに付いたとって、私は何か(なぜ騒ぐのか)、さっぱりもうわからない。そのホンダワラを1年食ったって、規制量の量(放射線被曝のこと)にはならない。そういうふうなことでもございまして、4月20日にフランスへ参りました。事故が起きたのを聞きながら、その確認しながらフランスへ行ったわけです。ところがフランスまで送られてくる新聞には毎日、毎朝、今にも世の中ひっくり返りそうな勢いでこの一件が報じられる。やむなく帰国すると、“悪るびれた様子もなく、敦賀市長帰る”こういうふうに明るく日の新聞でございまして、実はビックリ。ところが敦賀の人は何食わぬ顔をしておる。ここで何が起こったのかなという顔をしておりますけれど、まあ、しかしながら、魚はやっぱり依然として売れない。あるいは北海道で採れた昆布までが...

敦賀は日本全国の食用の昆布の7~8割を作っておるんです。が、その昆布までですね、敦賀にある昆布なら、いうようなことで全く売れなくなってしまった。ちょうど4月でございまして、ワカメの最中であつたのですが、ワカメも全く売れなかった。まあ、困ったことだ、嬉しいことだちゅう...。そこで私は、まあ魚屋さんでも、あるいは民宿でも100円損したと思うものは150円貰いなさいというのが、いわゆる私の趣旨であつたんです。100円損して200円貰うことはならんぞ、と。本当にワカメが売れなくて、100円損したんなら、精神的慰謝料50円を含んで150円貰いなさい、正々堂々と貰いなさいと言つたんですが、そうしたら出てくるわ出てくるわ、100円損して500円欲しいという連中がどんどん出てきたわけです(会場爆笑、そして大拍手?!)。

100円損して500円貰おうなんてのは、これはもう認めるもんじゃない。原電の方は、少々多くても、もう面倒臭いから出して解決しますわ、と言いますけれど、それはダメだと。

正直者がバカをみるという世の中を作ってはいけないので、100 円損した者には 150 円出してやってほしいけど、もう面倒臭いから 500 円あげるというんでは、到底これは慎んでもらいたい。まあ、こういうことだ、ピシヤリとおさまった。

いまだに一昨年事故で大きな損をしたとか、事故が起きて困ったとかいう人は全く一人もおりません。まあ言うなれば、率直に言うなれば、一年一回ぐらいは、あんなことがあればいいがなあ、そういうふうなのが敦賀の町の現状なんです。笑い話のようですが、もうそんなんでホクホクなんですよ。

(原発ができると電源三法交付金が貰えるが) その他に貰うお金はお互いに詮索せずにおこう。キミんところはいくら貰ったんだ、ボクんところはこれだけ貰ったよ、裏金ですね、裏金！まあ原子力発電所が来る、それなら三法のカネは、三法のカネとして貰うけれども、その他にやはり地域の振興に対しての裏金をよこせ、協力金をよこせ、というのが、それぞれの地域である訳でございます。それをどれだけ貰っているか、を言い出すと、これはもう、あそこはこれだけ貰った、ここはこれだけだ、ということでエキサイトする。そうすると原子力発電所にしろ、電力会社にしろ、対応しきれんだろうから、これはお互いにもう口外せず、自分は自分なりに、ひとつやっていこうじゃないか、というふうなことでございまして、例えば敦賀の場合、敦賀 2 号機のカネが 7 年間で 42 億入ってくる。三法のカネが 7 年間でそれだけ入ってくる。それに「もんじゅ」がございまして、出力は低いですが、その危険性……、うん、いやまあ、建設費はかかりますので、建設費と比較検討しますと入ってくるカネが 60 数億円になろうかと思っておるわけでございまして… (会場感嘆の声と溜息がもれる)。

で、実は敦賀に金ヶ崎宮というお宮さんがございまして (建ってから) 随分と年数が経ちまして、屋根がボトボトと落ちておった。この冬、雪が降ったら、これはもう社殿はもたんわい、と。今年ひとつやってやろうか、と。そう思いまして、まあたいしたカネじゃございませんが、6000 万円でしたけれど、もうやっぱり原電、動燃へ、ポッポッと走って行った (会場ドツと笑い)。あっ、わかりました、ということで、すぐカネが出ましてね。それに調子づきまして、今度は北陸一の宮、これもひとつ 6 億で修復したいと、市長という立場ではなくて、高木孝一個人が奉賛会長になりまして、6 億の修復をやろうと。今日はここまで (講演に) 来ましてんで、新年会をひとつ、金沢でやって、明日はまた、富山の北電 (北陸電力) へ行きますとね、火力発電所を作らせたる、1 億円寄付してくれ (ドツと笑い)。これで皆さん、3 億円既に出来た。こんなの作るの、わけないなあ、こういうふうに思っとる (再び笑い)。まあそんな訳で短大は建つわ、高校は出来るわ、50 億円で運動公園は出来るわね。火葬場はボツボツ私も歳になってきたから、これも今、あのカネで計画しておる、といったようなことで、そりゃあもうまったくタナボタ式の街づくりが出来

るんじゃないだろうか、と、そういうことで私は皆さんに（原発を）お薦めしたい。これは（私は）信念を持つとる、信念！

えー、その代わりに 100 年経って片輪が生まれてくるやら、50 後に生まれた子供が全部片輪になるやら、それはわかりませんよ。わかりませんが、今の段階では（原発を）おやりになった方がよいのではなかろうか…。こいうふうに思っております。どうもありがとうございました。（会場、大拍手）

内橋 克人著 「原発への警鐘」 講談社文庫より